

〈論 文〉

今どきの「大丈夫です」—その使用実態 (2013)
 ～「大丈夫です」は若者ことばか?～
 Today's "Daijobu"—it's actual state of use in 2013
 ～Is "Daijobu" really young people's language?～

やました さよこ
 山下早代子

明海大学
 Sayoko Yamashita
 Meikai University

キーワード：大丈夫、若者ことば、新方言、発話行為、ポライトネス

Key words: Daijobu, young people's language, new dialect, politeness Speech act

要旨

本研究は最近使い方の変化が指摘されている「大丈夫です」という表現に焦点をあて、それが使用される状況、場面によって、また使う人々の年齢、性別、仕事経験の有無により、意識が異なるかどうかを検証し、この表現が使用される実態を明らかにすることを目的とする。9つの「大丈夫」使用場面を設定し、アンケート調査を実施した。アンケートの質問項目は、2項選択形式で、1) 自分がその場面で使うか・使わないか、2) ほかの人が言うのを聞いて気になるか・ならないか、そして記述回答を求める質問として、3) ほかの人が言って気になる場合は、自分ならその場面で何と言うかを記述してもらった。20代から80代までのアンケート協力者108人を3つのグループ（若者、中年、シニア層）に分けてカイ二乗分析（残差分析調整を含む）を行った結果、9つすべての場面で〈ほかの人が使ったときに気になる・気にならない〉の意識で若者とシニア層に有意差（若者は気にならない、シニアは気になる、がそれぞれ有意に多い）が認められた。また〈自分が使うか・使わないか〉の意識調査では、5つの場面で若者とシニア層に有意差（若者は自分で使う、シニア層は使わない）が認められた。これに対し、中年層はほとんどの場面でそのどちらにも有意差を示さないという結果が出た（数量的には、若者層と中年層の中間ぐらいの数値を示す）。性別・仕事経験の有無に関しても同様の方法で統計分析を行った結果、どの場面にも有意差は認められず、この「大丈夫」の使い方は、性別・仕事経験の有無では使用状況に差はなく、年齢でのみ差があることがわかった。この結果を踏まえ考察を行い、その使用実態についてまとめた。本研究結果を受け

て今後の研究への示唆についても述べる。

Abstract

This study focuses on the use of “*daijobu*” whose use is often subject to criticism today. The purpose of the study is to find out whether differences in awareness of the expression and its use exist between different demographics (age, sex, employment history). A questionnaire including two kinds of multiple choice questions; 1) “Do you yourself use the expression in a described situation?” and, 2) “Does it bother you when people say the expression in a described situation?” and one open-ended question asking, “If it does bother you, what would you say instead?” A statistical analysis (χ^2 with residual analysis) was conducted to find out whether there are statistical differences in each case. The results showed a statistically significant difference between the young group and the senior group in regards to whether the expression bothers them in each situation. There was also a significant difference in terms of whether or not they themselves would say it. It was revealed that young people use the expression significantly more than the senior group in some situations. The middle age group lies in between the young and senior groups, and did not show significant difference in most cases. Sex and job experiences also revealed no significant difference. Detailed analysis of the use of *daijobu* in each case is presented and implications and future directions are discussed.

1. はじめに

最近（2013年現在）、馴染んできた用法と異なる使い方が気になるようになってきたことの一つに「大丈夫です」（あるいは「大丈夫ですか」）という表現がある。例えば、次のように使われる。（いずれも筆者が言われた例である）。

例1：スーパーで買い物をして支払を済ませたとき（2013年2月東京都下のスーパーIで）

店員（40歳代女性）「袋は一つで大丈夫ですか？」

例2：赤ん坊の乗ったベビーカーを持って乗車してきた女性（2013年4月JR中央線車内）

筆者「どうぞお座りになりませんか？」

女性（30歳代女性）「大丈夫です」（笑みを浮かべながら）

例3：パン屋でサンドイッチを購入時、店員が筆者に（2013年4月千葉県内）

店員（20歳代女性）「お手拭は大丈夫ですか？」

例4：ガソリンスタンドで給油中、店員が筆者に（2013年5月千葉県内）

店員（30歳代男性）「灰皿は大丈夫ですか」

例5：夜10時頃のレストランで（2013年5月東京都内）

店員（20歳代女性）「ラスト・オーダーですが、大丈夫ですか」

例6：ファミリーレストランで、食事の皿を下げにきた店員が（2013年6月東京都下）

店員（30歳代男性）「お下げして大丈夫ですか」

従来それぞれ、例1は、「よろしいですか?」、例2は「結構です（断り）」、例3は必要性を尋ねる（「なくてもいい（またはご入り用）ですか」）、例4は「（車内の灰皿の中にタバコの吸い殻があつて店員の方で）始末する必要はありませんか」、例5は「（これで最後ですが注文するものは）もうありませんか」、例6は（許可を問うて）「下げてかまいませんか」などという表現が使われていたのではないと思われる。それらがすべて「大丈夫」で済まされている。

このようなことばの使用上の変化、意味の変化、あるいは新たな使い方の台頭は、いつの時代にも見られるものであり（たとえば戦後であれば、ラ抜きことば、じゃん、ナウいなどの表現）、井上（1998）の言うように、「ことばはいつも変わるもの」と見ることができる。本稿では特にこの「大丈夫」という表現を取り上げ、2013年現在どのような意味で、どのような世代に特徴的に使われているのかの使用実態を明らかにし、変化していく日本語の一面を記述することを目的とする。

2. 文献レビュー*注1

前段で述べたように、この「大丈夫」という表現は、従来の意味とずれて使われるようになってきていることが直観的にわかる。ちょうど本稿の執筆中に出た朝日新聞の「気持ちが悪い日本語」という記事（2013年6月1日付）にも、ウェブ上で実施した、朝日新聞デジタル会員登録者へのアンケート調査の気持ちが悪い日本語の第8位に「（お飲み物は）コーヒーで大丈夫ですか」が選ばれたとある。ただ、これには調査回答者が1301名という記述があるのみで、年齢別、性別の結果は示されていない。このような「大丈夫」の用法がなぜ気持ち悪いのか、それを明らかにするために、まずは辞書におさめられている「大丈夫」の意味を確認することから始める。

2.1. 辞書にある「大丈夫」の意味

一般的な辞書・辞典に記述されている形容動詞、副詞としての「大丈夫」の意味は多少の表現の違いはあれ、おおよそ次のようなものである。（第一義的な意味として名詞としての「立派な男子」が掲載されたあとに記述される場合が多い）。

- ①しっかりしているさま。ごく堅固なさま。あぶなげのないさま。危なげがなく確かなさま。(『広辞苑』、2008; 『現代国語辞典』、2001; 『旺文社国語辞典』、2007; 『広辞林』、1984; 『講談社国語辞典』、2004; 『小学館国語大辞典』、1972)。例としては「強い地震にも大丈夫な建物」(『広辞苑』)、「ぬらしても大丈夫な時計」(『旺文社』)などが掲載されている。
- ②きわめて丈夫、非常に気強いさま。これは『小学館国語大辞典』(1972)に掲載され、歌舞伎・人情本から例が引かれている(「爺は歳は73だが、まだ齒は大丈夫だ」)。
- ③『ベネッセ表現読解国語辞典』(2005)では、間違いなく、の意味のあとに、用法として、よい結果を信じ、安心する気持ちを込めて用いる、という注が入っている。
- ④『角川必携国語辞典』(2007)では、上の①とほぼ同じだが、「しっかりしていて、たよりになる」、が形容動詞の意味として提示されている。「不都合や心配がない様子」、というように表現法がやや異なる。例は「10時集合で大丈夫です」「まかせておけば大丈夫だ」、類語として「安心」が挙げられている。また、副詞としては、確実なようす、間違いなく保証できるが意味として挙げられており、類語として「きっと」が提示されている。例は「大丈夫、明日は晴れるよ」で、注釈として、よい結果になると信じる気持ちが込められると説明されている。
- ⑤『明鏡国語辞典』(2011)には上で挙げた①の意味のほか、[俗]注3として、相手の勧誘などを遠回しに拒否する語という解説が載っている。「結構」と同義となっており、「お一ついかが?」「いえ、大丈夫です」、「砂糖は二個?」「いえ、大丈夫です」の二つの例が挙げてあり、表現の説明として、「そんな気遣いがなくとも問題はないの意から、主に若者が使う (下線は筆者による)。危なげがない場面で使う用法で、本来は不適切」と記されている。なお、この辞書の編者は北原保雄で、『問題な日本語』のシリーズも編集しており、そのシリーズの中でも「大丈夫」の表現が触れられている(北原、2005)。

このように見てくると、2000年以降に編纂された辞書には用法の説明に工夫のあとが見られ、特に『明鏡国語辞典』(2011)には、最近使われ出した「大丈夫」の意味が、若者ことばとして説明されている。いずれにしても、従来の辞書に記述されている意味とは異なる用法が使用され出していることが読み取れ、これが一部の人には「気持ちの悪い」あるいは受け入れられない日本語として捉えられていると考えられる。

2.2. 若者ことばと「大丈夫」

「大丈夫」がはたして若者ことばと言えるかどうかを若者ことばの定義、性質から探りたい。若者ことばについてはさまざまな場で議論されており、関連する出版物も多い。

米川(2006)は若者ことばを次のように定義している。

「若者ことばとは、中学生から30歳前後の若い男女が仲間内で娯楽・会話促進・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。」(p.20)

「大丈夫」の用法をこの定義にあてはめると、従来の使い方から明らかに逸脱しているという点

で「規範からの自由」が関係ありそうだが、「若い男女が仲間内で娯楽・会話促進・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う」表現には特にあてはまらない。

米川（2006）はまた若者ことばを集団語であり、俗語であると位置づけている。米川（2003）は俗語を、話しことばの中で公の場、改まった場などでは使えない、語形、意味、用法、語源、使用者などの点が荒い、汚い、幼稚、下品、誤ったなどと意識される語や言い回しであると定義している。「大丈夫」ということばの違和感は、あるいは意味・用法が誤っていると意識されるからではないかと思われる。『明鏡国語辞典』（2011）で【俗】と記述される理由もそのあたりにありそうである。

『月刊言語』（2006）には「若者ことば大研究—変容するコミュニケーション環境の中で」が特集されており、その中には若者ことばと方言の関係（吉岡、2006）、若者ことばの言語構造からの分析（窪菌、2006）、若者ことばの全国分布図調査（永瀬、2006）などが納められているが、「大丈夫」に関して言えば、言語構造、形が変わっていくのではなくて、込められる意図、機能が多様化（変化）してきているように思われる。

吉岡（2006）では若者ことばと方言の関係が論じられているが、「大丈夫」の方言性を確かめると、『日本方言大辞典』（1989:1355-1356）には、「食物などをすすめられて辞退するときの語。たくさん（山梨県）」と、「肯定の返事に言う語（山梨県南巨摩郡）」の二つが紹介されている。現在の「大丈夫」の使用にこれらの山梨方言の使用法の関わりを否定できない。

「大丈夫」の使い方には、さらに地域方言としてではなく、井上（2008）の言う言語変化としての新方言の考え方に触れなければならない。井上（2008）によれば、ことばの変化を使用者の年齢分布の変化に注目して区分すると、4分類できるとしている。それらは、一時的流行語、若者世代語、コーホート語（同一出生世代：井上、2008:51）、言語変化としての新方言の4つであるとする。この位置づけだと、新方言は流行語でもなく、若者語・コーホート語でもない。新方言は、ある時期の若い世代に多い言い方で、進行中の言語変化の典型であるとし、東京など知識人の規範意識の強いところでは、「ことばの乱れ」として非難されるとまとめている（井上、2008:52）。本稿ではこれらの特徴を踏まえて、「大丈夫」の使用実態を明らかにしたい。

2.3. インターネット上の記述

変化していく表現としての「大丈夫」の用法についての疑問と応答は、インターネット上でも散見される。

NHK 放送文化研究所（2013）の『ことばウラ・オモテ』にも「ほんとうに「大丈夫」という記事があり、定食屋で食事をしているときに「お水は大丈夫ですか」と言われて違和感を持った人の話が掲載されている。

YOMIURI ONLINE（2013）には、「大丈夫です！って失礼ですか？（接客）」という読者の問いがあり、そこでは接客のアルバイトを始めた読者（若者）から、お客様に「大丈夫」ということばを使っていいのか、という質問が投げかけられている。客がつり銭を受け取りそこなって落と

した時に、店員として「申し訳ございません、大丈夫ですか」といってよいかという質問である。

また日経 Biz アカデミー（2013）では、「大丈夫です」ということばの真意を読み取れるか、というタイトルで、破局したカップルの女性タレントが「バレンタインチョコはどうするんですか？」と聞かれて「ええ、大丈夫です」と答えたやりとりを紹介して、大丈夫の新しい使い方だとしていた。そして、「近年、若者が頻繁に使う「大丈夫」は「軽い遠慮や辞退、拒否」、あるいは「結構」や「いらぬ」を表す新たな使用法である」と述べている。

このように、現代では辞書等の説明では追いつかない、ことばの急激ともいえる変化は、インターネット上で議論されたり話題になることが多くなっていることがわかる。

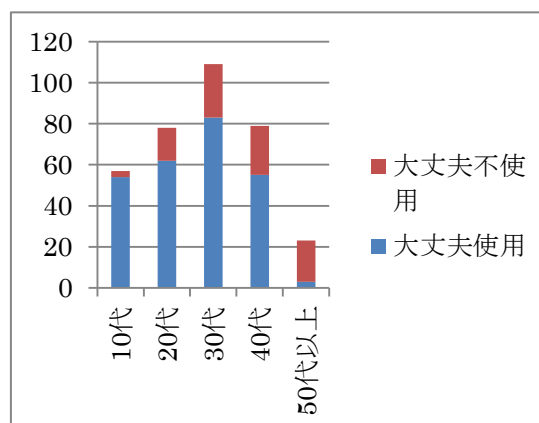
2.4. 野本（2013）の接客を通じた調査

「大丈夫」は、上の YOMIURI ONLINE（2013）でもあるように、若者にとってもまだ 100% 受け入れられる使い方ではなく、使っていいのだろうか、と悩む若者もいるようだ。アルバイト先の大衆レストランで接客し、客の使う「大丈夫」という表現に興味を持った大学生の野本（2013）は、担当となった昼食時の支払いカウンターで、ある実験を試みた。そのレストランでは、特にランチの時間帯には、支払い時に出されるレシートを受け取って帰る客がほとんどいないところに目をつけ、客がレジで支払いを済ますごとに「レシートはよろしいですか」という問いかけを意図的に行い、否定、拒否（いりません）の意味で「大丈夫です」と答えてレシートを受け取らなかった客の人数を男女、年齢層に分けて、2012 年 12 月中の 1 週間に亘って記録していった。実際にデータとなった、レシート不要の人数の内訳は、男 195 人、女 151 人であった。年齢層は調査者、野本の見た印象により 10 代、20 代、30 代、40 代、50 代以上の 5 グループに分けたので多少の誤差はあるが、概ね世代を反映していると思われる。

その結果は以下の表に示す通りである。すべて、「不要である」と意思表示した客の内訳なので、「大丈夫不使用」では、「大丈夫です」のかわりになんらかの意思表示があったが、その内訳は、口頭での「いらぬです」「結構です」「はい」（「レシートはよろしいですか」の意味を「いらぬですよ？」の意味に受け取ったため）と応えたケース、会釈して立ち去る、手振りで示し立ち去る、などの非言語行動で示したケースがあったという。これらが年齢別、男女別で報告されている。

男女	人数	大丈夫を 使用	大丈夫を 不使用
10代	57	54	3
20代	78	62	16
30代	109	83	26
40代	79	55	24
50代以上	23	3	20
合計	346	257	89

(野本、2013より)



この調査では統計分析は行っていないが、不必要を表す断りの「大丈夫です」はやはり若者、特に10代から20代の若者が使う割合が多いことがわかる。またこの使用差に男女の異なりはなかったと報告されている。

上記の文献レビューを踏まえ、本研究では以下の課題を掲げる。アンケートにより「大丈夫です」あるいは「大丈夫ですか」(以下「大丈夫」)の使用意識調査を行い、それぞれの課題を明らかにすることを試みる。

- 1) 「大丈夫」の使用場面に対する意識は年齢によって差があるか。
- 2) 「大丈夫」は男女でその使用意識に差はあるか。
- 3) 「大丈夫」に対する意識は仕事経験の有無で差はあるか。
- 4) 「大丈夫」の自らの使用意識と、他人が使用したときの意識に差はあるか。

3. 研究方法

3.1. 研究協力者

年齢・性別・仕事経験の有無の内訳は以下の通りである。仕事経験の有無は()で表す。有効回答は108である。

表1. 年齢別・性別・仕事経験別人数

	男性	女性	合計
若年層 (20代)	27 (21)	28 (25)	55 (46)
中年層 (30~50代)	7 (7)	19 (19)	26 (26)
シニア層 (60代以上)	11 (11)	16 (16)	27 (27)
合計	45 (39)	63 (60)	108 (99)

注. ()内は職歴のある参加者の人数を示す

なお、年齢群は、若年層（20代）、中年層（30代～50代） シニア層*注2（60代以上（70代・80代を含む））とした。若年層はほとんどが現役の大学3-4年生のため20代前半で、人数としては大きな塊（55名）となっている。30代、50代を同じ中年層に分類したのは、20代の大学生に対して、社会人として通常現役で仕事をしている年代であること、また、60代以上を一つのグループとしたのは、多くが定年退職後であり、また団塊の世代としてまとまりがあると思われることによる。ただしこの層には70代、80代も含まれる。中年層、シニア層は数字的にはほぼ同数となっている。

仕事経験の有無を尋ねたのは、「大丈夫」表現が接客業を通して広まった可能性があるため（前段文献レビュー参照）、特に若年層でアルバイト経験の有無が差につながる可能性を検定したかったためである。

3.2. アンケート調査

アンケートは付録1にある通り、全部で11場面（うち2場面は「大丈夫」の入らないもの）からなり、それぞれの場面で発せられた「大丈夫」の使われた会話例が示され、自分自身がそのような表現を使うか使わないか、またほかの人が使ったときに気になるかならないか、を尋ねた。そして気になる場合には、自分ならこう言うという表現を自由記述で書いてもらった。

状況説明のあとに続く「大丈夫」の9表現は以下の通りである。それぞれ目標表現（大丈夫）に下線が記されている。なお、【 】内には表すと思われる機能を入れた。

- 1) 「袋は1つで大丈夫ですか？」【相手のニーズを尋ねる】
- 3) 「細かい方（20円）は大丈夫ですか？」【相手のニーズ（都合）を尋ねる】
- 4) 「少々お時間がかかりますが大丈夫ですか？」【相手の都合を尋ねる】
- 6) 「休みたいんですけど、大丈夫ですか？」【自分の要求に対する許可を願う】
- 7) 「大丈夫です」（タクシーの領収書を不要という意味で運転手に言う）【断り】
- 8) 「大丈夫？」（ころんだ友人に）【相手の状況の良し悪しを尋ねる】
- 9) 「こうやって書いて大丈夫ですか？」（役所で）【自分の不都合がないかを尋ねる】
- 10) 「一本350円になりますが、大丈夫ですか？」【相手の都合を尋ねる】
- 11) 「コーヒーは大丈夫ですか？」（カップの中身が少ない）【相手のニーズを尋ねる】

なお、2)「以上でよろしかったでしょうか」と 5)「日曜日の朝9時から住民集会をするんですが、来れますか」は本分析からははずす。

3.3. 分析方法

本アンケートでは各項目のそれぞれの回答（①自分が使うか使わないか、②他人が言うのを聞いて気になるか気にならないか）の頻度を、a)3つの年齢群（若年、中年、シニア）、b)男女別、

c) 仕事経験の有無ごとに分けて、 χ^2 (カイ二乗) 検定を行った。

χ^2 検定は、独立性の検定 (独立な標本間の比率の差の検定) として用いられるが、全体の比率の違いのみを検出するだけで、個別の項目のどこに差があるかは示さないで、どこに差があるか (本データで言えば、3群のどれが異なるか) を示すために Harberman の「残差分析」(渡部、1996) を実行した。両側検定による残差分析の有意確率は、下を採用する。

$|r| > 2.58$ ならば、 $p < .01$

$|r| > 1.96$ ならば、 $p < .05$

なお、記述回答については質的方法により分析する。

4. 結果と考察

4.1. 「大丈夫」の使用場面に対する使用意識は年齢によって差があるか。

上記 3.2 で設定した場面において、次の 4.1.1 で、自分が使うか・使わないかを、4.1.2. で、ほかの人が使って気になるか・ならないかを年齢層により検証する。

4.1.1. 自分は使うか使わないか

アンケートの第1の問い、それぞれの状況で自分が使うか使わないかについて、自分は使うと答えた人の数をそれぞれの年齢層別にまとめたのが下の表2である。

表2. 年齢別回答 (自分自身が使う)

項目	状況 (場面)	若年 (55)	中年 (26)	シニア (27)	合計 (108)
1	(コンビニで) 袋は一つで大丈夫か	17	7	6	30
3*	(支払い時) 細かい方 (20 円) は大丈夫か	10	0	1	11
4	(注文時) 時間がかかるが大丈夫か	16	7	5	28
6*	(バイト先で) 休みたいが大丈夫か	25	6	2	33
7*	(タクシー領収書不要の意で) 大丈夫です	38	12	3	53
8	(ころんだ友人に) 大丈夫?	51	26	23	100
9*	(役所で) ここ、こう書いて大丈夫ですか	46	18	6	70
10*	(花屋で) 1 本 350 円—大丈夫ですか	12	0	0	12
11	(おかわりの) コーヒーは大丈夫ですか	7	1	1	9

*有意差がある項目

表2に示された人数の有意差を検定するため、 χ^2 (カイ二乗) 検定 (調整済残差分析含む) を

行ったところ、項目3, 6, 7, 9, 10でそれぞれ有意差が認められた。有意差がある項目のみ、詳細を順に下に示す。

項目3「本屋での会話」では、残差分析により若年層と中年層に有意差が出た。「自分が使う」は若年層が有意に多く、中年層が有意に少なかった。表と図は以下に示す。

表3. 項目3の使用者意識

本屋での会話「細かい方(20円)は大丈夫ですか」			
年代		自分は使わない	自分が使う
20代	人数	45	10
	調整済み残差	-2.8	2.8
30, 40, 50代	人数	26	0
	調整済み残差	2.0	-2.0
60, 70代以上	人数	26	1
	調整済み残差	1.3	-1.3
	合計人数	97	11

注. $\chi^2=8.033, df=2, p<.05$

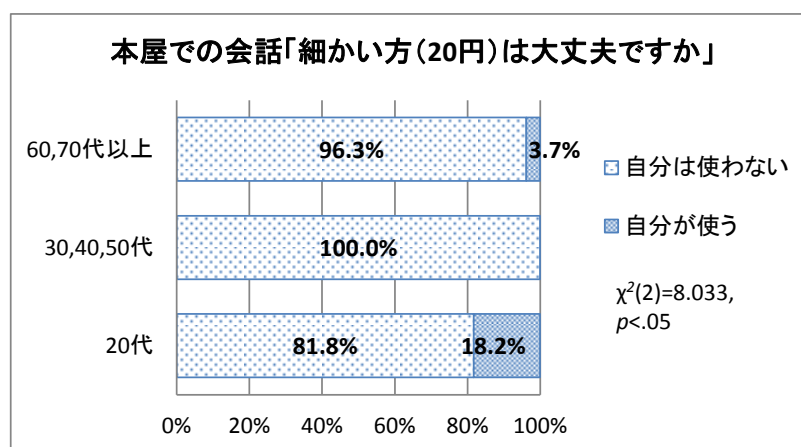


図1. 項目3の使用者意識

次に項目6「バイト先」を見る。項目6では、下の残差分析により、若年層とシニア層に有意差が出た。「自分が使う」には若年層が有意に多く、シニア層が有意に少なかった。

表 4. 項目 6 の使用者意識

バイト先での会話 「明日どうしても休みたいんですけど、大丈夫ですか」			
年代		自分は使わない	自分が使う
20代	人数	30	25
	調整済み残差	-3.4	3.4
30, 40, 50代	人数	20	6
	調整済み残差	1.0	-1.0
60, 70代以上	人数	25	2
	調整済み残差	3.0	-3.0
	合計人数	75	33

注. $\chi^2=13.257, df=2, p<.01$

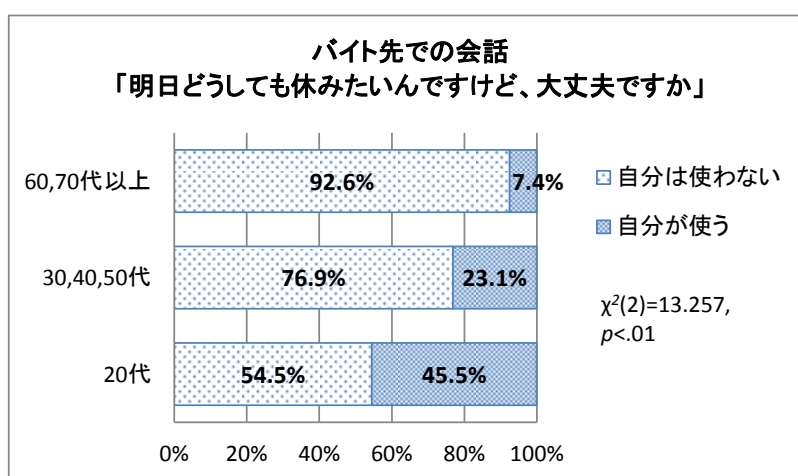


図 2. 項目 6 の使用者意識

項目 7 「タクシーの会話」では、残差分析により若年層とシニア層に有意差が出た。「自分が使う」には若年層が有意に多く、シニア層が有意に少なかった。

表 5. 項目 7 の使用者意識

タクシーの会話「(客が)大丈夫です」			
年代		自分は使わない	自分が使う
20代	人数	17	38
	調整済み残差	-4.2	4.2
30, 40, 50代	人数	14	12
	調整済み残差	0.3	-0.3
60, 70代以上	人数	24	3
	調整済み残差	4.6	-4.6
	合計人数	55	53

注. $\chi^2=24.477, df=2, p<.001$

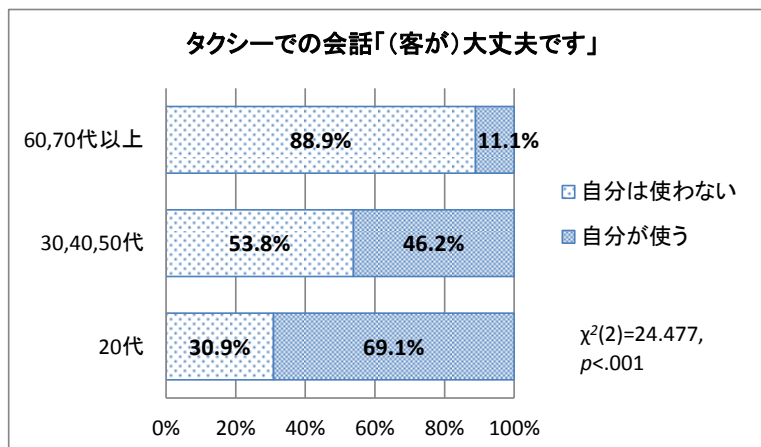


図3. 項目7の使用者意識

項目9「役場で」では、残差分析により若年層とシニア層に有意差が出た。「自分が使う」には若年層が有意に多く、シニア層が有意に少なかった。

表6. 項目9の使用者意識

役場での会話「ここ、こうやって書いて大丈夫ですか」			
年代		自分は使わない	自分が使う
20代	人数	9	46
	調整済み残差	-4.2	4.2
30, 40, 50代	人数	8	18
	調整済み残差	-0.5	0.5
60, 70代以上	人数	21	6
	調整済み残差	5.4	-5.4
	合計人数	38	70

注. $\chi^2=30.244, df=2, p<.001$

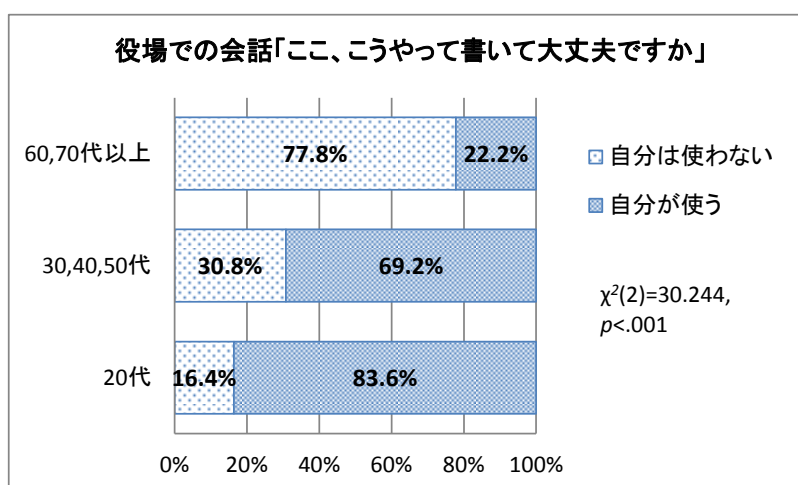


図4. 項目9の使用者意識

項目10「花屋での会話」では、残差分析により若年層に対して若年層と中年層の2グループに有意差が出た。「自分が使う」には若年層が有意に多く、中年層とシニア層は有意に少なかった（ここでは中年・シニア層で使うと答えた人がゼロであった）。

表7. 項目10の使用者意識

花屋での会話 「この赤いバラは一本350円になりますが、大丈夫ですか」			
年代		自分は使わない	自分が使う
20代	人数	43	12
	調整済み残差	-3.6	3.6
30, 40, 50代	人数	26	0
	調整済み残差	2.1	-2.1
60, 70代以上	人数	27	0
	調整済み残差	2.1	-2.1
	合計人数	96	12

注. $\chi^2=13.009$, $df=2$, $p<.01$

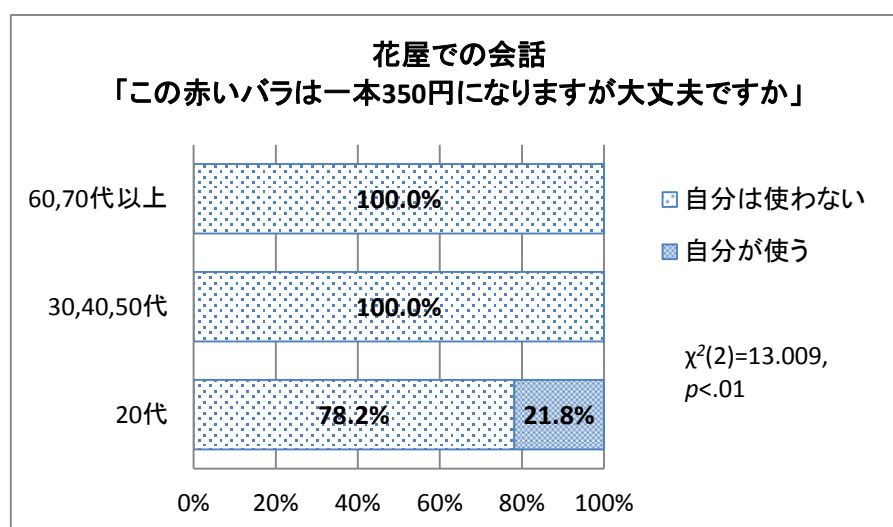


図5. 項目10の使用者意識

9場面の使用者意識(自分が使うか使わないか)を分析した結果は、5場面では有意差が出たが、すべて若者層の使用意識の「自分が使う」の人数が、シニア層の人数より有意に多かったことがわかった(項目10の「花や」に関しては中年層とシニア層がともに有意に少なかった)。特に場面6の「バイト先で」【許可願い】と場面7の「タクシーでの会話」【断り】では自分が使うと言った研究協力者が数の上でも多い順に若者>中年層>シニアとはっきり区別でき、新たなことばの使用は若者から始まるということを示している。

また、9場面のうち、ころんだ友人を気遣って「大丈夫?」と聞く本来の使用法は、ほとんど

すべての研究協力者が、「自分が言う」と答え、統計的にも差はなかった。これはこの「大丈夫」のもともとの意味が他の意味にとってかわられていくというのではなく、本来の使い方も残しつつ、新たな用法、機能が加わっていつていることを表している。

自分の都合で休みをとりたいたいという【許可願】は、本来「休みたいんですけど、よろしいでしょうか」「休んでいいですか」というような、許可を依頼する表現になり、聞かれた相手にとっては返事を明確に返さなければならないという負担を負わすことになり（ダメという返事をする場合にはなおさらで）、これは Brown & Levinson (1987/田中監訳、2011) のポライトネス理論の、相手のネガティブ・フェイス（侵害されたくない、ほうっておいてほしいという人間が本来的に持っている欲求）を犯すことになる。そこで直接的な依頼表現（あるいは許可願）を用いることをさけて相手への負担を軽減するような、自分がいない状況について大丈夫か、迷惑ではないかということを知る。ここには自分の都合ではなく相手、会社を気遣っているという配慮が働く。もちろん、これは無意識下での言語行動であると言える。

また、タクシーの領収書を不要と返事する意味で使う「大丈夫」は【断り】の機能を持つ。断りという発話行為もポライトネス理論でいうと、相手のネガティブ・フェイスをつぶす働きを持つので、それを緩和するための方策として相手を立てるような（少なくとも「いません」と冷たく言い放つのではない表現—「大丈夫です」）をネガティブ・ポライトネスとして使うのではないかと考えられる。村田（2005）は若者ことばであるキャンパスことばを調査し、その性質として、聞き手に親しみを与えたい、言いにくいことを伝えなければならないと考えた時に学生は相手を傷つけないように、仲間内のキャンパス語を使用し、聞き手との対人関係を構築する。そのためにポジティブ・フェイスに配慮するような話し方をする、としている。今の若者層が、そのような意味で無意識にフェイスに配慮する意図でこの「大丈夫」を使っていると言えるかもしれない。

3.2 で述べた機能については、相手のニーズや都合を尋ねる場面 1, 3, 4, 10, 11 は、相手が欲するかどうかを尋ねている。つまり、

- 1) 袋をもう一つ必要ですか。
- 3) 細かいお金を追加したいですか。
- 4) 長く待てますか。
- 10) (350 円で高いですが)、買いますか。
- 11) もっと飲みたいですか。

の意味があるが、これらを直接言うことは、相手のネガティブ・フェイス（よけいなことを聞かれない、放っておいてほしい）を侵害することになる。このように文章で並べただけでも、圧迫するような気分がするのではないだろうか。「大丈夫」はそれらの個々の、フェイス侵害に触れるようなことを避け、一つの表現で済ますことによって、それらの相手の気持ちをカモフラージュする効果があるのかもしれない。

4.1.2. ほかの人が「大丈夫」を使ったとき、気になるか・ならないか

これについても、 χ^2 検定による統計分析（残差分析調整）を実行した。その結果、正統的な使用である足を滑らせた人へのいたわりの表現としての「大丈夫？」を除く8つの場面すべてで、「気になる・ならない」の意識に年齢層間で有意差が認められた。「気になる・ならない」の数値は、すべて若者層対シニア層間（場面9の役場での使用だけが、若者と中年が同じグループ）で有意差が出た。すなわち、その数値から若者の方が「気にならない」という意識が有意に高く、シニア層は「気になる」という正反対の意識が有意に高かった。本結果を表8に表し、個々の図表は割愛する。

表8（次のページに提示）を見ると、絶対数の異なりはあるにしても、若者層ほど高く、シニア層ほど低くなっているのがわかる。項目8以外、それぞれ、若者層とシニア層には統計的に有意差があった。この結果から、4.1.1.で述べた、若者層は「自分が使う」と答える人が多かったのに加え、「ほかの人が使っても気にならない」とする人が多いことがわかる。また、さらに上記統計結果より、中年層を中心に見たときに、中年層は若者層ともシニア層とも有意差を示さなかった（場面9を除く）。これは、中年層がどちらかともつかない中間に位置していることを示し、興味深い。

表 8. 「ほかの人が使うのを聞いて気にならない」と答えた人の数

項目	状況	若年 (55)	中年 (26)	シニア (27)	合計 (108)
1*	(コンビニで) 袋は一つで大丈夫か	42	17	13	72
	注. $\chi^2=6.513, df=2, p<.05$				
3***	(支払い時) 細かい方 (20 円) は大丈夫か	38	10	6	54
	注. $\chi^2=16.933, df=2, p<.001$				
4*	(注文時) 時間がかかるが大丈夫か	41	16	11	68
	注. $\chi^2=8.904, df=2, p<.05$				
6**	(バイト先で) 休みたいが大丈夫か	37	12	7	56
	注. $\chi^2=12.846, df=2, p<.01$				
7***	(タクシー領収書不要の意で) 大丈夫です	46	20	9	75
	注. $\chi^2=22.499, df=2, p<.001$				
8	(ころんだ友人に) 大丈夫?	55	26	25	106
	* 統計的有意差なし				
9***	(役所で) ここ、こう書いて大丈夫ですか	53	25	11	89
	注. $\chi^2=43.111, df=2, p<.001$				
10**	(花屋で) 1本 350 円—大丈夫ですか	39	11	8	58
	注. $\chi^2=14.200, df=2, p<.01$				
11**	(おかわりの) コーヒーは大丈夫ですか	30	10	4	44
	注. $\chi^2=11.283, df=2, p<.01$				

* $p<.05$ 、** $p<.01$ 、*** $p<.001$

4.2. 「大丈夫」は性別でその使用意識に差はあるか。

χ^2 検定による統計分析(残差分析調整)の結果、どの場面にも有意差は見られなかった。したがって性別で使用意識に差は認められなかった。

4.3. 「大丈夫」に対する意識は仕事経験の有無で差はあるか。

χ^2 検定による統計分析(残差分析調整)の結果、どの場面にも有意差は見られなかった。したがって仕事経験の有無で使用意識に差は認められなかった。

4.4.1. 「大丈夫」の自らの使用意識と、他人が使用したときの意識に差はあるか。

ここで問うているのは、4つのケースである。①自分は使うが他の人が言う時には気になる、②自分も使うし他の人が使うのも気にならない、③自分は使わないし(ので)、他の人が言うのも

(は) 気になる、そして4つ目が、④自分は使わないが、人が言うのは気にならない、である。統計分析により結果を読むと、場面と年齢層による統計的有意差が見られた。有意差が見られた項目は、項目3の「本屋」、項目6の「バイト先」、項目7の「タクシー」、項目9の「役場」、項目10の「花屋」、項目11の「コーヒーおかわり」である。以下に統計分析の結果を示す。

項目3では、「使う—気にならない」で若者と中年に有意差があり、「使わない—気になる」で若者とシニア層に有意差が、「使わない—気にならない」で若者とシニアに有意差が認められた。以下表と図を提示する。

表9. 項目3—自分の使用・他人の使用に対する意識

本屋での会話「細かい方(20円)は大丈夫ですか」					
年代		使う— 気になる	使う— 気にならない	使わない— 気になる	使わない— 気にならない
20代	人数	0	10	17	28
	調整済み残差		2.8	-4.0	2.4
30, 40, 50代	人数	0	0	16	10
	調整済み残差		-2.0	1.4	-0.2
60, 70代以上	人数	0	1	21	5
	調整済み残差		-1.3	3.3	-2.6
	人数合計	0	11	54	43

注. $\chi^2=20.870, df=4, p<.001$

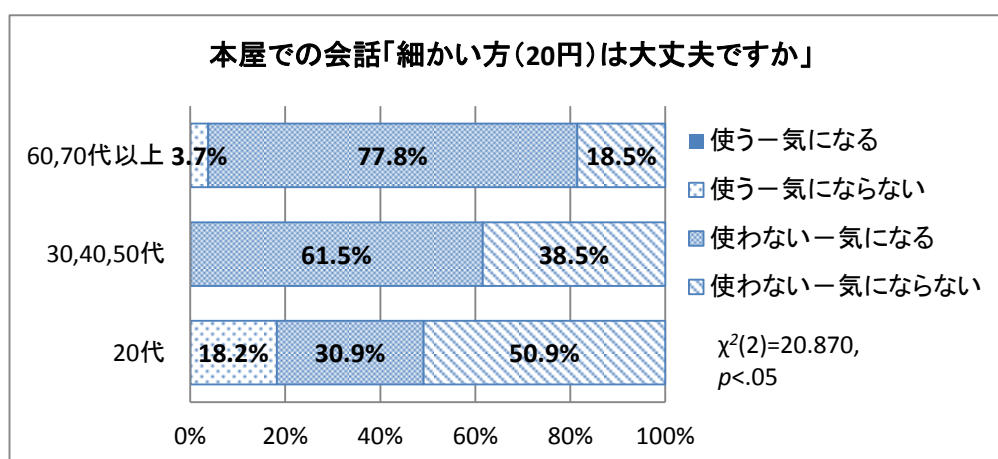


図6. 項目3—自分の使用・他人の使用に対する意識

表 10. 項目 6—自分の使用・他人の使用に対する意識

		バイト先での会話「明日どうしても休みたいんですけど大丈夫ですか」			
年代		使う— 気になる	使う— 気にならない	使わない— 気になる	使わない— 気にならない
20代	人数	1	24	17	13
	調整済み残差	1.0	3.2	-3.5	0.4
30, 40, 50代	人数	0	6	14	6
	調整済み残差	-0.6	-0.8	0.8	0.1
60, 70代以上	人数	0	2	20	5
	調整済み残差	-0.6	-2.9	3.2	-0.5
	人数合計	1	32	51	24

注. $\chi^2=17.170, df=6, p<.01$

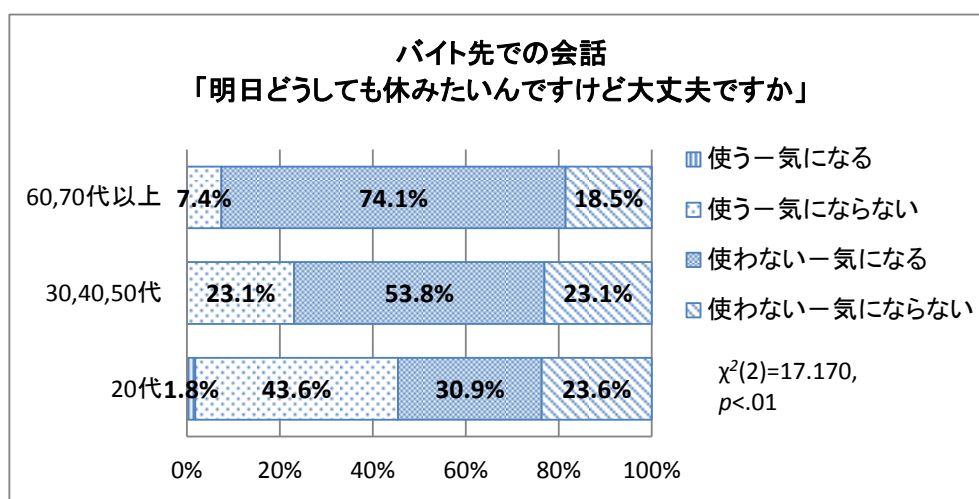


図 7. 項目 6—自分の使用・他人の使用に対する意識

表 11. 項目 7—自分の使用・他人の使用に対する意識

		タクシーでの会話「(客が)大丈夫です」			
年代		使う— 気になる	使う— 気にならない	使わない— 気になる	使わない— 気にならない
20代	人数	3	35	6	11
	調整済み残差	1.0	3.9	-3.8	-1.0
30, 40, 50代	人数	0	12	6	8
	調整済み残差	-1.1	0.1	-0.5	0.9
60, 70代以上	人数	1	2	17	7
	調整済み残差	0	-4.6	4.9	0.3
	人数合計	4	49	29	26

注. $\chi^2=33.401, df=6, p<.001$

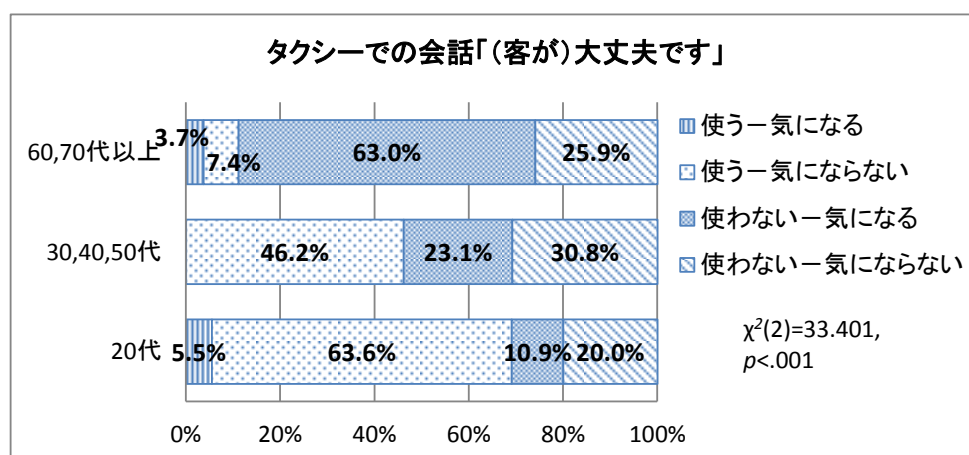


図 8. 項目 7—自分の使用・他人の使用に対する意識

表 1 2. 項目 9—自分の使用・他人の使用に対する意識

役場での会話「ここ、こうやって書いて大丈夫ですか」

年代		使う一 気になる	使う一 気にならない	使わない一 気になる	使わない一 気にならない
20代	人数	1	45	1	8
	調整済み残差	1.0	4.0	-4.2	-1.1
30, 40, 50代	人数	0	18	1	7
	調整済み残差	-0.6	0.7	-2.0	1.3
60, 70代以上	人数	0	6	16	5
	調整済み残差	-0.6	-5.2	6.9	0.0
	人数合計	1	69	18	20

注. $\chi^2=51.873, df=6, p<.001$

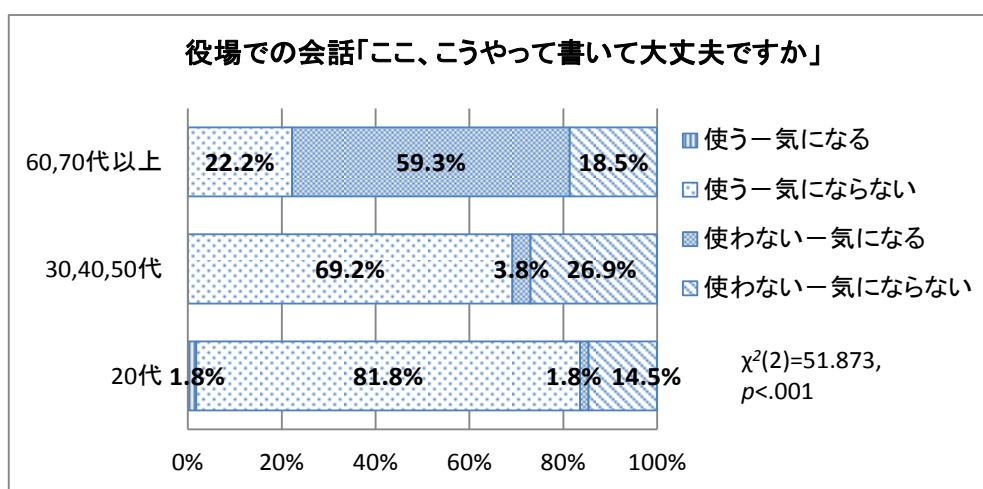


図 9. 項目 9—自分の使用・他人の使用に対する意識

表 1 3. 項目 1 0—自分の使用・他人の使用に対する意識

花屋での会話「この赤いバラは一本350円になりますが、大丈夫ですか」					
年代		使う— 気になる	使う— 気にならない	使わない— 気になる	使わない— 気にならない
20代	人数	1	11	15	28
	調整済み残差	1.0	3.4	-3.8	1.6
30, 40, 50代	人数	0	0	15	11
	調整済み残差	-0.6	-2.0	1.4	-0.1
60, 70代以上	人数	0	0	19	8
	調整済み残差	-0.6	-2.0	3.0	-1.7
	人数合計	1	11	49	47

注. $\chi^2=22.019, df=6, p<.01$

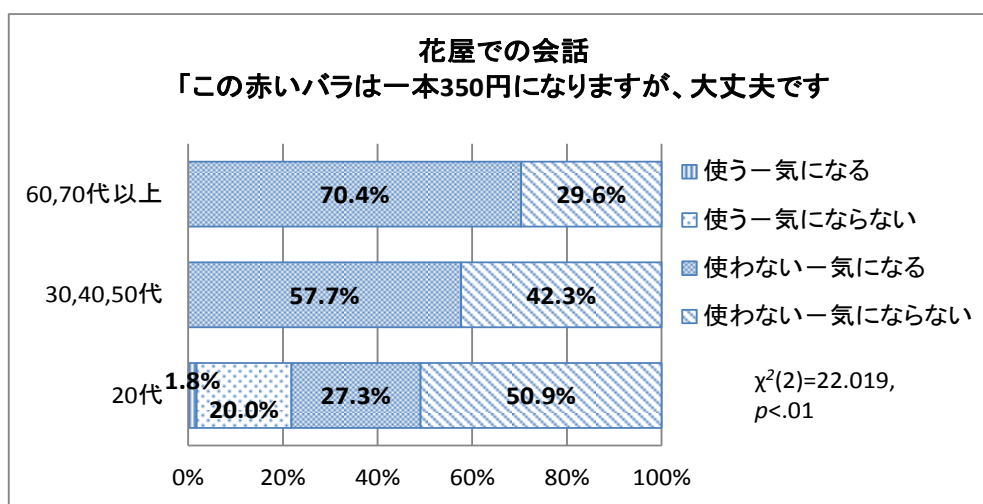


図 1 0. 項目 1 0—自分の使用・他人の使用に対する意識

表 1 4. 項目 1 1—自分の使用・他人の使用に対する意識

ファミレスでの会話「コーヒーは大丈夫ですか」					
年代		使う— 気になる	使う— 気にならない	使わない— 気になる	使わない— 気にならない
20代	人数	1	6	24	24
	調整済み残差	-0.6	2.5	-2.7	1.9
30, 40, 50代	人数	1	0	15	10
	調整済み残差	0.4	-1.4	0.1	0.4
60, 70代以上	人数	1	0	22	4
	調整済み残差	0.3	-1.5	3.0	-2.6
	人数合計	3	6	61	38

注. $\chi^2=15.135, df=6, p<.05$

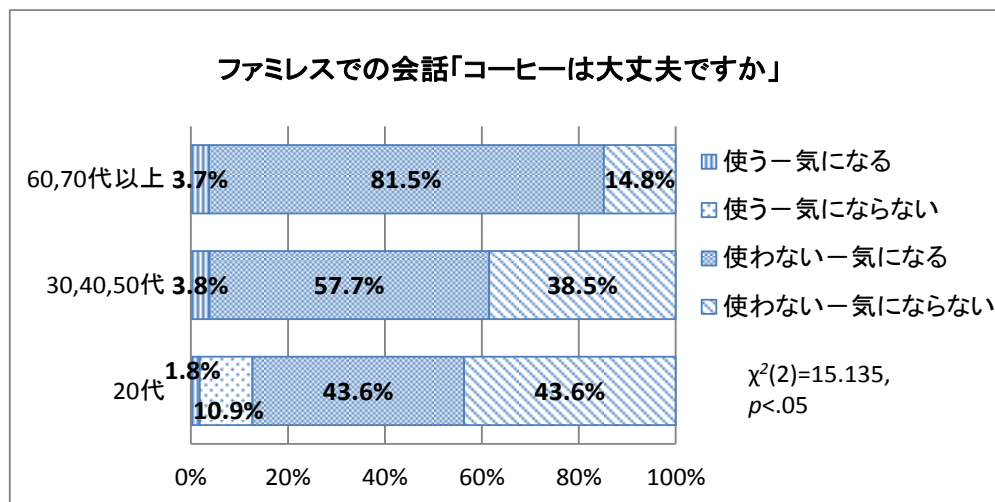


図 1 1. —自分の使用・他人の使用に対する意識

このセクションでは、「大丈夫」の自らの使用意識と、他人が使用したときの意識に差はあるか、の統計分析結果を提示した。いわゆる若者ことばと称されるものの一つの特徴は、旧世代からことばが乱れているとか、使い方がおかしいと批判されることである。自分が「大丈夫」を思っている人は、他人が使っても気にならないはずである。自分が使わないと言っている人が、ほかの人が言うのも気になるか、あるいは自分は言わないがほかの人が言っても気にならないのか、この2点が本分析で知りたいところである。提示した6つの項目（いずれも統計分析の結果、群間で有意差が出ている）の詳細を見ると、はっきりと若者層とシニア層に有意差が出ている。表9から表14までが分析結果の解釈においては、本研究では、両側検定による残差分析の有意確率を、+2.0以上を当該分析項目が有意に多い、-2.0以下が有意に少ない、としている。それを当てはめると、表9から表14すべてにおいて、＜使わない一気になる＞の分析項目が、若者層がすべて-2.0以下、シニア層がすべて+2.0以上である。これは、若者層では＜使わない一気になる＞が有意に少なく、シニア層では＜使わない一気になる＞が有意に多い、ということを示している。「大丈夫」の新しい用法に関して、シニア層が自分は使わないし、他人が使うのを聞いて大いに気になる、ということが示された。

4.4.2. 「自分ならこう言う」という表現

調査では各状況で、表現が気になる場合に、自分ならこう言うという表現を書いてもらった（自由記述式）。各項目で「大丈夫」の代わりに言うと言われた表現の上位2表現とそれ以外（その他とする）とそれらを選んだ人数をまとめると以下の表15のようになる。

表15 自分ならこう言う

	状況（場面）	人数	表現
1	袋は1つで大丈夫ですか。	52 8 8	よろしいですか／いいですか 袋はお分けしますか (その他) 袋は2枚いらいますか、他
3	細かい方(20円)は大丈夫ですか。	31 30 8	よろしいですか ありませんか／お持ちですか (その他) 出されますか、他
4	少々お時間がかかりますが、大丈夫ですか。	59 4 5	よろしいでしょうか お待ち頂けますか (その他) 問題ありませんか、他
6	明日休みたいんですけど、大丈夫ですか。	45 10 14	よろしいでしょうか やすませてもらえますか (その他) 許可いただきたいんですが、他
7	タクシー領収書 「いらいますか」「大丈夫です」	30 23 2	結構です いらしません／いらないです (その他) 必要ありません
8	ころんだ友人に	4	(その他) 怪我ない？
9	役所で「こうやって書いて大丈夫ですか」	22 6 3	よろしいですか／いいですか 問題ないですか (その他) 正しい書き方教えて下さい他
10	花屋で「一本350円になりますが、大丈夫ですか」	54 5 11	よろしいですか いかがいたしますか、どうなさいますか (その他) 何も言わない(4)、かまいませんか、お求めですか、他
11	ファミレスで、 「コーヒーは大丈夫ですか」	66 11 9	いかがですか／いかがでしょうか よろしいですか (その他) お持ちしましょうか、おかわりなさいますか、追加しましょうか、他

状況1, 3, 4, 6, 9, 10では、「大丈夫」のかわりに、「よろしいですか」「よろしいでしょうか」「いいですか」と、相手に都合を尋ねる形になっている。タクシー領収書を不要と返答する状況7では、「結構です」あるいは「いらしません」を代わりに言うかと答えている。状況11は欲しいかどうかを尋ねる場面で、多くが「いかがですか」と言うかと答えている。

ここで状況1や3で「大丈夫ですか」の代わりに「よろしいですか」が使われた場合を考えたとき、肯定の答えは恐らく「はい、大丈夫です」となり、「はい、よろしいです」とはならないだろう。「はい、よろしいです」は、丁寧というよりは、なにか高飛車な感じに聞こえ、若者の多くが「よろしいですか」を避ける傾向があるというのは、このようなところに原因があるのではないだろうか。一方、最初から「大丈夫ですか」と聞かれば（言えば）、「はい」だけ、あるいは「はい、大丈夫です」と答えることができ、相手を（自分も）様々な表現に煩わされることがなく、かつ相手を傷つけることもなく便利である。案外こんなところにことばの変化の原因が隠されているのかもしれない。

5. まとめ

「大丈夫」の用法についての4つの研究課題に対してアンケート調査を実施し、108名の研究協力者の回答を統計分析（ χ^2 検定－残差分析調整）した。その結果、このことばの使用に関する意識は、性別や仕事経験の有無では差がなかったが、使われる場面により若者層とシニア層で有意に異なっていることがわかった。特に相手に対して負担になるような条件の場合に「大丈夫」が若者層に使用されることが多い。これは、ポライトネス理論で議論されるフェイス侵害行為（FTA）を緩和する働きがあると思われる。ほかの人が使って気になるという意識も若者層では多くないが、シニア層で有意に多かった。中年層は多くの場面で、若者層とシニア層の中間の数値を示した。これは、10年後、20年後に今の若者層が中年層に、中年層がシニアになっていくにしたがって推移していくことが予測される。

「大丈夫」は確かに若者によって多く使われていることが示されたが、それが文献レビューで見た米川（2006）が定義したような「若者ことば」として厳密には区分できない。むしろ、井上（2008）の提唱する言語変化としての新方言としてとらえると説明がつく。新方言は流行語ではなく、若者語・コーホート語でもない。新方言は使用者が全世代に広がっていくのが特徴で、進行中の言語変化の典型であるとする（井上、2008）。本研究ではタイトル副題を～「大丈夫です」は若者ことばか？～としたが、現在若者が多く使用している様子が顕著である「大丈夫」は、「若者言葉」としてこの時代に存在するのではなく、ラ抜きことばなどのようにいずれ主流となる使い方の一過程を示しているのではないかと思われる。

最後に今後の課題について簡単に述べたい。今回は「大丈夫」の使用に特化してデータ収集を行った。そして分析は主として意識調査の部分について行った。記述回答（自分ならこういう）にも興味深い例が多くあったが、紙面の都合で、その詳細な分析は別の機会に回すことにする。また、変化が進行していることばは「大丈夫」のほかにもたくさんあると思われる。それらに研究の範囲を広げればさらに多くの知見が得られるであろう。例えば、これも巷でうるさく取りざたされている「以上でよろしかったでしょうか」や語尾上げの類である。本アンケートについては、自分が使うか使わないかを自己申告形式で書いてもらったが、井上（2007）で触れられているように、自分は絶対言わない、と言っている本人が、自分の気が付かないところで実際は使用

している・していたという（ビデオにはっきり録画されていたことから、それが判明したというように）ケースがありうる。そういった部分を排除するには、調査方法をアンケート式一本にするのではなく、面接法や自然会話の採集なども考える必要があるだろう。いずれにしても、これからも、長い年月に少しずつ変わっていくことばの不思議を“ウォッチング”（井上、1998）していきたいと思う。

注1：本来「先行研究」とすべきセクションであるが、トピックの性質上、学術的な研究成果だけでなく、辞書の記述やウェブ上の書き込みなども参照したため、Creswell (2007) にならって、「文献レビュー」とした。

注2：[俗]の説明として、『明鏡辞典』の略号一覧には、俗語（卑俗な語、新しい語）の注意書きがある。

注3：「シニア層」は、一般には「老年層」が使われると思うが、「老」という漢字のマイナスイメージを排除するためシニア層とした。

謝辞

本稿の統計分析は明海大学樋口倫子氏のアドバイスを受けた。また、分析補助はRA（リサーチ・アシスタント）の明海大学応用言語学研究科博士後期課程1年の新妻奈緒美さんの助けを借りた。この場を借りてお礼を申し上げる。また、本研究はデータがなければ成り立たない。調査に協力してくれた学生やアンケートに快く協力してくれた方々に感謝する。

参考文献

- 朝日新聞（2013年6月6日朝刊）「気持ち悪い日本語」
 井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波書店
 井上史雄（2007）『変わる方言 動く標準語』ちくま新書
 井上史雄（2008）『社会方言学論考』明治書院
 北原保雄編（2005）『続弾 問題な日本語』大修館書店
 窪菌晴夫（2006）「若者ことばの言語構造」『月刊言語』35-3、52-59.
 桑本裕二（2010）『若者ことば 不思議のヒミツ』秋田魁新報社
 水谷静夫（2011）『曲がり角の日本語』岩波書店
 永瀬治郎（2006）「若者ことば全国分布図」『月刊言語』35-3、40-49.
 野本翔太（2013）「大丈夫って若者言葉？」明海大学外国語学部英米語学科ゼミ論文（未発表）

村田和代 (2005) 「ポライトネスから見る若者ことばの機能—龍谷大学キャンパス語の分析を通して」『龍谷大学国際センター研究年報』14, 25-37

吉岡泰夫 (2006) 「方言が若者ことばを活性化する」『月刊言語』35-3、26-33.

米川明彦 (2006) 「若者ことば研究序説」『月刊言語』35-3、20-25.

渡部 洋 (1996) 『心理・教育のための統計学入門』金子書房

Brown, P. & Levinson, S.C. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press. (田中典子監訳、山下早代子他訳 (2011) 『ポライトネス：言語使用における、ある普遍現象』研究社)

Creswell, J.W. (操華子・森岡崇訳) (2007) 『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』日本看護協会出版会 (原題: *Research Design: Qualitative, quantitative, and mixed methods approaches*)

インターネットから

NHK 放送文化研究所 (2013) 「ことばウラ・オモテ—ほんとうに「大丈夫」

<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/uraomote/101.html>

(2013/04/21 取得)

日経 Biz アカデミー (2013) 「「大丈夫です」という言葉の真意を読み取れるか」

[http://bizacademy.nikkei.co.jp/seminar/communication/shaberi/article.aspx?id=](http://bizacademy.nikkei.co.jp/seminar/communication/shaberi/article.aspx?id=MMACi8000020022012&print=1)

[MMACi8000020022012&print=1](http://bizacademy.nikkei.co.jp/seminar/communication/shaberi/article.aspx?id=MMACi8000020022012&print=1) (2013/04/27 取得)

YOMIURI ONLINE (2013) 「大丈夫です！ってしつれいですか？ (接客)」

<http://komachi.yomiuuri.co.jp/t/2012/0519/508618.htm?g=01>

(2013/04/21 取得)

辞書・辞典

大野晋・田中章夫編 (1995/2007) 『角川必携国語辞典』角川学芸出版

沖森卓也・中村幸弘編 (2003/2005) 『ベネッセ表現読解国語辞典』Benesse

北原保雄編 (2011) 『明鏡国語辞典』(第2版) 大修館書店

金田一京助編集顧問・日本大辞典刊行会 (1972) 『小学館国語大辞典』小学館

阪倉篤義・林大監修 (1966/2004) 『講談社国語辞典』(第3版) 講談社

三省堂編集所 (1984) 『広辞林』(第6版) 三省堂

徳川宗賢監修・尚学図書編集 (1989) 『日本方言大辞典』(下巻) 小学館

新村出編 (1955/2008) 『広辞苑』(第6版) 岩波書店

林巨樹監修 (1985/2001) 『現代国語辞典』小学館

松村明・山口明穂・和田利政編 (1960/2007) 『旺文社国語辞典』(第10版) 旺文社

付録1【言葉の使い方に関するアンケート】

*アンケートの実際のフォントサイズは10.5で、A4サイズ2ページに収めたが、本付録では紙面の都合上フォントサイズを落としてある。

本アンケートは言葉の使い方について調査するものです。結果は研究の目的でのみ使用し、回答者の名前等が特定されることはありません。よろしくご協力をお願いいたします。ご不明な点があれば、yama@meikai.ac.jpまで遠慮なくお尋ね下さい。 山下早代子・明海大学大学院応用言語学研究科

あなたご自身のことについて_____に記入し、該当する（ ）に○をお書きください。

1. 名前：_____ 連絡先：_____
 2. () 男性、() 女性
 3. 年齢：() 20代 () 30代 () 40代 () 50代 () 60代 () 70代以上
 4. アルバイト、または就職の経験：() ある、() ない
経験がある場合、その職種はなんですか _____
-

以下のそれぞれの状況で、下線を引いた表現をあなた自身が使うか使わないかどちらかに○、ほかの人が使っ
て気になるか気にならないかで該当する方に○を、気になる場合、自分ならこう言うという表現があれば
に書いて下さい。

- 1) コンビニで、冷たいものと温かいものを購入したとき店員が聞きました
→「袋は1つで大丈夫ですか?」
() 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
() ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
自分なら、こう言う _____
- 2) レストランの注文をしたときにウェイターが復唱して尋ねました。
→「以上でよろしかったでしょうか?」
() 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
() ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
自分なら、こう言う _____
- 3) 720円の本を購入して1000円札を出したときに、本屋の店員が言いました。
→「細かい方(20円)は大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

4) レストランで注文したら店員が言いました。

→「少々お時間がかかりますが大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

5) 地元の地区委員が電話してきて以下のように聞きました。

→「日曜日の朝9時から住民集会をするんですが、来れますか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

6) バイト先で、休みをとりたい店員が店長に聞きます。

→「明日どうしても休みたいんですけど、大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

7) タクシーから降りる時、運転手さんが「領収書はいりますか」と聞いたので、

→(客は)「大丈夫です」と答えました。

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

8) 友達が足をすべらせてころんだのを見て言いました。

→「大丈夫?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
 () ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
 自分なら、こう言う_____

9) 役所に出す申込書の書き方に自信がない人が、係の人に尋ねました。

→「ここ、こうやって書いて大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
() ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
自分なら、こう言う_____

10) 花屋で数本の花を選んだが、値段の高い花を店員が指摘しました。

→「この赤いバラは一本350円になりますが、大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
() ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
自分なら、こう言う_____

11) ファミリーレストランでコーヒーを飲んでいて、カップの中身が少なくなってきたとき、ウェ
イターがきて言いました。

→「コーヒーは大丈夫ですか?」

- () 自分自身が使う・() 自分自身は使わない
() ほかの人が使うのを聞いて気になる・() 気にならない
自分なら、こう言う_____

ご協力有難うございました。